【高等学校用】

令和２年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校

1　前年度 評価結果の概要	・基礎学力の向上と家庭学習の定着を目標に学校全体で取り組んだが、特に家庭学習の習慣が薄く全職員の認識や情報共有が十分でなかった。 ・基本的生活習慣を定着させるため、日ごろから生徒への声掛けを意識して行った結果、少しづつではあるが規範意識の向上につながった。ただ、交通マナーの向上にはまだ指導の余地がある。 ・働き方改革の推進に向けて、会議内容の見直しや運営委員会と職員会議を兼ねる等、時間の削減及び効率的な業務の適正化により意識の高揚につながった。
2　学校教育目標	歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。
3　本年度の重点目標	○ “ものづくり” から “者（ひと）づくり” そして “未来（あす）づくり” ア　規律ある高校生活の定着　　イ　ものづくり教育の推進 ウ　部活動の充実　　エ　開かれた学校づくりの推進

4　重点取組内容・成果指標

（1）共通評価項目

評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組
●学力の向上	○わかる授業の実践と学習意欲の向上に向けた学習指導の充実。	○授業アンケートにおいて丁寧でわかりやすい授業と感じている生徒80%以上。	・研究授業、公開授業を行い、職員相互の授業参観で良いところを取り入れ、わかりやすい授業をめざす。
	○資格取得の推進。 ・各科の重点資格と基礎資格の合格率増を目指す。 ・ジュニアマイスターのゴールドとシルバー取得者増を目指す。	○資格取得において75%以上の合格率を目指す。 ・ジュニアマイスター取得者は全校生徒の数の5%を目指す。	・担任や科と連携して資格取得者を増やす。 ・全員受験基礎資格の指導徹底と補習体制の強化を図る。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒の状況把握に努め長期欠席や断続欠席者の10%減少。 ○心の教育に関する講演会、授業を年間5回以上。	・生徒と会話を密にして、職員、家庭と連携を取り、早めの対応に努める。 ・外部講師を招聘した講演会や授業、ホームルームにおいて心の教育に取り組む。
	●いじめの未然防止、早期発見、早期対応体制の充実	○生徒一人一人が安心して学校生活を送ることができるようにする。 ○大人にSOSを出せるように、相談環境を整え、生徒の居場所を作る。	・定期的にいじめアンケートを実施し、結果をもとに関係機関との連携など、早めの対応に努める。 ・常時、生徒が相談できる環境作りを行う。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒70%以上	・「佐賀語り」やDVD教材を活用し、佐賀県の良さを再発見させる。 ・外部講師を招聘し、郷土愛を育む講演を行う。
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上を目指す。	・「保健だより」を発行して、健康面や栄養面の情報を提供する。 ・食に関するアンケートを実施して、食習慣などに意識を持たせる。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○生徒の生活事故、交通事故を0（ゼロ）にする	・年1回の警察による交通講話の実施。 生徒指導部による登下校指導。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校務を見直し、業務の偏り不均衡を是正する。 ・部活動実施計画を確認し、部活動指導者を交代で指導に当たらせることで、週休日勤務を昨年度より2割削減する。
	○事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進	○教育行政職員の専門性を活かし、経営的視点を持ちながら学校運営に積極的に参画する。	・教員との連携を密にし、情報共有を行い、学校の現状を把握して一つのチームとして学校運営に取り組む。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組
○進路実現	○生徒・保護者の負託に応じた進路指導の充実	○進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成などキャリア教育の推進を図る。 ・就職試験の一次合格率を上げ、進路決定率の年内100%達成を目指す。	・進学補習等で基礎学力を向上させる。 ・面接指導、集団討議訓練を実施する。 ・企業訪問報告会を6月、3月に実施する。 ・SPI試験の対策に小テストを実施する。
○学びのトレーニングによる基礎学力の向上	○学習意欲の喚起と基礎学力の向上	○基礎学力講座小テストの各学年における正解率75%を目指す。	・学びの時間を学年に応じた内容で実施し、学習の習慣化を図る。 ・生徒の学力について現状や改善点を職員間で情報共有することに努める。

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・